

# N0110 タウンニュース 様

2010年2月26日(金)号

(川崎区・幸区版) 他の区版も後日掲載予定です。



## 「かわさきのねいろ」 学校教材として市に寄贈

### 市民団体アレアファーレかわさき

市民団体「アレアファーレかわさき」(横山俊夫代表)は、19日、学校教材としてダンス曲にアレンジした「かわさきのねいろ」のCD・DVD約220枚を市に寄贈した。平成24(2012)年度から中学校の保健体育の授業でダンスが

必修化されるため、各校で活用してもらうことを狙いとしている。

寄贈式には阿部孝夫市長や各関係者などが出席。式では制作したダンスを披露するため、市内でダンスをする中高生や大学生から選出されたダンスチーム「スーパー舞音(まいんど)」が華やかな衣装を身にまといながら、全身を使い、キラのあるステップで踊りを披露した。

ダンスを披露する「スーパー舞音(まいんど)」の9人。山崎莉奈さんは「ダンス経験のない子どもでも踊れるので、友達同士で踊りを通じて交流を図って欲しい」と話した。

「かわさきのねいろ」は、04年に市政80周年を記念して制作された曲。「音楽のまち・かわさきの歌」として市に選ばれ、川崎市民の心の絆を永く歌い継いでもらいたいと選曲された。同団体は、子どもが中心の踊りの祭典を開催することを目的に平成13(2001)年に設立された。これまでに都はるみさんの「川崎おどり」や川崎生まれの坂本九さんの「明日があるさ」をアレンジした踊りを制作。平成17(2005)年4月からは毎年JR川崎駅周辺で「かわさき舞祭り」を開催し、子どもたちの踊りを披露している。

横山代表は「活動から丸5年の節目を機に、慣れ親しんだ曲を多くの人に伝えていきたい」と今後の抱負を話した。